

新聞紙上に見る公正観¹⁾

Perception of “Fairness” in the Press

間淵 領吾*

Ryogo Mabuchi

社会学部助教授

1. 研究の目的と経過

本研究の目的は、社会的不公平に関する社会意識の時代的特性ならびに時系列的变化を究明することにある。従来、社会意識や社会状況の把握には、通常、社会調査に基づく計量的データが用いられてきた。しかし、長期間にわたる社会意識の変化を時系列的に研究するには、既存の社会調査データの2次分析のみでは不可能である。筆者は、新聞・雑誌記事（特に読者の投書欄）に現れた様々な言葉という質的データを分析することにより、既存の社会調査データの2次分析によっては明らかにし得ない社会意識の特徴を究明しようと試みている。すでに筆者は、平成10年度奈良大学研究助成により新聞・雑誌記事の内容分析に着手したが、平成10年度の研究は、主として朝日新聞のデータベース（CD-ROMならびにオンライン）に依存したため、他の新聞やデータベース化されていない年代の記事は分析の対象外とせざるを得なかった。そこで、平成12年度は、それらの新聞記事についても分析対象とすることにより、研究の充実を図ることを目指した。

2. 研究成果の概要

ここでは、スペースの関係等により、期間と新聞を限定して、内容分析の結果を例示的に紹介するととどめる。より詳細な分析結果は、後日公刊される予定の論文に譲ることとする。

表1は、1991～1995年の毎日新聞において、「公平」（および「不公平」）という言葉を含む記事に

表1 公平判断の比較対照
(毎日新聞、1991～1995年のみ)

比較対照	件数	%
納税者間	33	36.7
国家間	11	12.2
被疑者間・被告間	10	11.1
公職選挙立候補者間	8	8.9
被災者間	7	7.8
貧富	4	4.4
企業間	3	3.3
職業間	3	3.3
人種・民族・国籍間	3	3.3
受験者間	2	2.2
家柄間	1	1.1
身体的健康状態間	1	1.1
産業間	1	1.1
従業員間	1	1.1
出場者間	1	1.1
スポーツ選手間	1	1.1
計	90	100.0

において、公平か不公平かの判断の際に比較対照とされている当事者の種類を多い順に示したものである。最も多いのは、「納税者間」の公平・不公平に関する記事であり、1991年～1995年の期間内の36.7%となっている。以下、1割以上を示したのは、「国家間」(12.2%)と「被疑者間・被告間」(11.1%)である。

表2は、表1と同じ記事データに関して、公平判断の際に用いられていると推測しうる公正原理の種類をまとめたものである。ここでは、まず公正原理を、「手続き公正」か「分配公正」かに大別し、ついで分配公正について、「平等原理 (equality)」「衡平原理 (equity)」「必要原理 (need)」の3つに分類した。表2から、問題とされている不公平が「手続き公正」によると推測しうるものは21.3%、「分配公正」によると推測しうるものは計78.7%であることがわかる。また、分配公正に関しては、「平等原理」が46.1%で最も多く、次いで「衡平原理」27.0%、「必要原理」5.6%となっている。

なお、公平判断の比較対象となる当事者の種類(表1の変数)と公正原理(表2の変数)のクロス集計も当然可能だが、本報告では割愛する。また、時系列的变化についても別稿に譲る。

表2 公正原理
(毎日新聞、1991～1995年のみ)

公正原理	件数	%
手続き公正	19	21.3
分配：平等	41	46.1
分配：衡平	24	27.0
分配：必要	5	5.6
不明	1	—
計	90	100.0

3. 結論

新聞記事は、不定型データであり、自由回答と同様のデータであると考えられる。新聞記事の内容分析をおこなうことにより、質問紙調査による定型データによっては不可能な分析が可能になる。社会的不公平感に関しても、たとえば、上述のとおり、公平判断の比較対象をアフター・コウディングによって分類していくことが可能である。

また、世論調査データに依拠して意識の時系列的变化を追っていかうとすると、過去に関しては、比較可能な世論調査が実施されていない時期に関しては、分析が不可能になってしまう。これに対して、新聞記事をデータとすれば、その種の問題をある程度まで解消することが可能になる。

注

- 1) 本研究は、平成12年度奈良大学研究助成ならびに平成12年度～14年度日本学術振興会科学研究費補助金萌芽的研究「質的データによる社会的不公平感の趨勢に関する研究」(課題番号：12871030、研究代表者：間瀬領吾)の成果の一部である。

文献

- 間淵領吾 1996 「社会的不公平感の趨勢：世論調査の時系列分析」宮野勝（編）『日本人の公正観』中央大学社会科学研究所研究報告（第17号）:29-77、中央大学社会科学研究所。
- 間淵領吾 1998 「不公平感の趨勢—既存調査の2次分析—」宮野勝（編）『公平感と社会階層』（1995年SSM調査シリーズ：8）科学研究費補助金・特別推進研究（1）「現代日本の社会階層に関する全国調査研究」成果報告書：149-194、1995年SSM調査研究会。
- 間淵領吾 2000 「不公平感が高まる社会状況は何か：公正観と不公平感の歴史」海野道郎（編）『公平感と政治意識』（日本の階層システム：2）：151-170、東京大学出版会。

以上